乳幼児の 眼の外傷の防止

1. こどもの眼の特徴

こどもの時期は見ることに関係する脳や眼が成長している時期なので、この時期は眼の機能が発達段階にあります。眼の機能の中で最も重要なのは視力です。年齢に伴って成長して、6歳頃にはほとんどのこどもが視力1.0になりますが、こどもの眼の発達は年齢や個人で差が大きいのが特徴です。

2. こどもの眼のけがの特徴

こどもの眼のけがの起きる状況や原因は様々で、不注意で起こる事故も多いです。

けがの多い年齢は4～6歳で、約6割を占めます。男子が多く、約7割を占めています。

受傷の多い場所は教室（保育室）が約5割、園庭が約3割を占めます。

受傷時の遊具は鉄棒が多く、次いで砂場、総合遊具・アスレチック、すべり台となっています。

傷病名は眼瞼（がんけん）挫傷、眼球打撲が多くなっています。

3. 予防について

こどもの眼の事故は多くが周囲の人の見ていないときに起こっています。しかも、事故の状況や症状は、こども自身が十分に伝えられないものです。したがって、各施設で過去にあった事故事例や様々な報告を参考にして、起こりやすい場所や状況では、周囲の大人が注意をする必要があります。

4. 受傷時の留意点と応急処置について

こどもは起こった状況や自身の症状をきちんと訴えられないことから、事故後は早急に眼科を受診させてください。

事故が起こったときは、現場では次のことに注意してください。



☑ **まずは眼を保存的に処置することが重要です。**

眼の保存的処置のために

●眼を無理に開かせない。●強く押さえない。

眼への感染を防ぐために

●受傷後に眼に異物が入らないよう眼を覆う。●眼と眼の周辺を清潔に保つ。

眼帯の使用については、受傷したこどもが弱視になる可能性があるので、眼科医と相談の上で使用してください。

乳幼児の 手指外傷の防止

1. こどもの手指のけが

こどもの手や指は小さくて細いので、扉や隙間に挟まりやすく、状況によっては指の切断にもつながる事故となりえます。手の傷や指の切断は、治ってからも目立つ部位であり、小さな傷でもこどもの心に大きな影響を残します。

2. 手指外傷の予防のポイント



❶ドア、扉の蝶番（ちょうつがい）側にカバーを設置する。
❷折り畳み式の家具、遊具は固定を確実に行う。
❸こどもたちが触る場所に、とげ、くぎ、出っ張りがないか点検する。
❹指がはまりそうな大きさの穴がおもちゃ、遊具にないか点検する。
❺こどもの手指がないことを確認してから、物を動かす・閉める習慣を付ける。

3. 傷の対応

❶ 十分な洗浄

水道水、シャワーなどを使用して十分な水量で洗浄し、目に見えない細菌も洗い落とすことにより、傷口からの感染を予防します。水圧を強くする必要はありません。洗浄後はガーゼで包み込んで、軽く十数秒圧迫して止血します。外気に触れると痛みが強くなりますので、傷口にワセリンを塗り、ガーゼを優しく当てて保護しましょう。

❷ 消毒液は必要？

現在、消毒液の使用は推奨されていません。流水で十分洗浄することが最優先です。消毒液は、殺菌効果がありますが、傷を治す作用も抑えてしまう可能性があるからです。

❸ 小さい傷は大丈夫!?

小さくても深い傷もあります。何かが刺さった、動物にかまれた場合には、深くまで到達しているかもしれません。また、傷口が小さくて深いために、洗浄しにくく、感染症を引き起こしやすくなることも考えられます。傷の大きさだけでなく、深い傷の可能性を考えるようにしましょう。

4. 破傷風について

破傷風は、土の中に潜んでいる破傷風菌が原因となる感染症です。その土で生活している動物などにも付いている可能性があります。外でけがをした、動物にかまれた、引っかかれた場合に破傷風に感染する危険性があります。破傷風は進行すると重篤な状態となりますが、予防接種による予防効果は100%に近いと言われています。

定期予防接種である4種混合接種に、破傷風トキソイドが含まれます。
生後4か月までに3回接種されるスケジュールです。定期的にこどもの接種状況を確認しましょう。

参考：「破傷風とは」国立感染症研究所 https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/466-tetanis-info.html
（2023年9月15日アクセス）